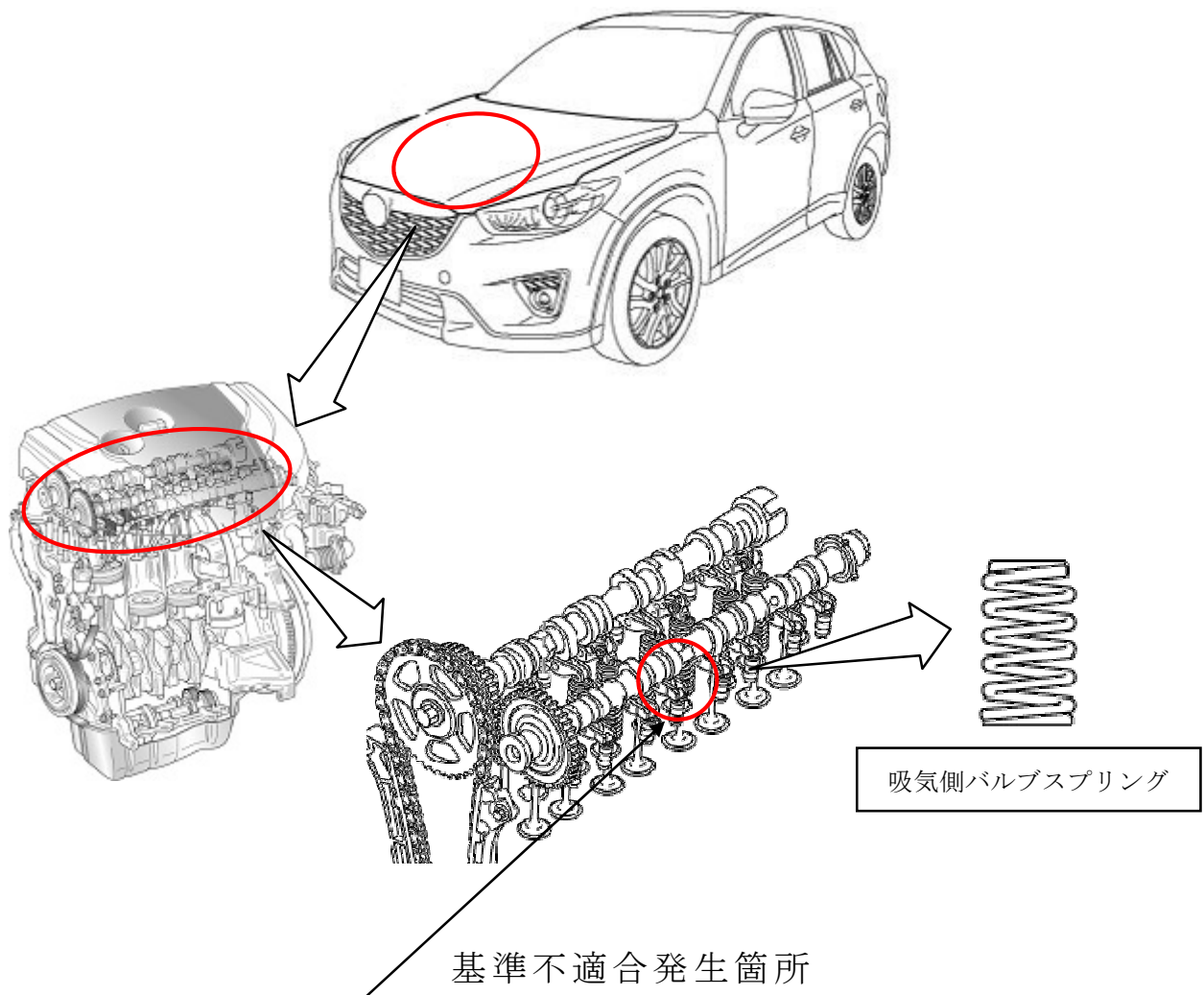


改善箇所説明図-①



エンジンの吸気側バルブスプリングにおいて、スプリング荷重の設定が不適切なため、吸気バルブの閉じ力が弱く、吸気バルブとバルブシート間に挟まる煤を押し潰すことができず、圧縮不良となることがある。そのため、エンジン回転が不安定になり、最悪の場合、エンジンが停止するおそれがある。

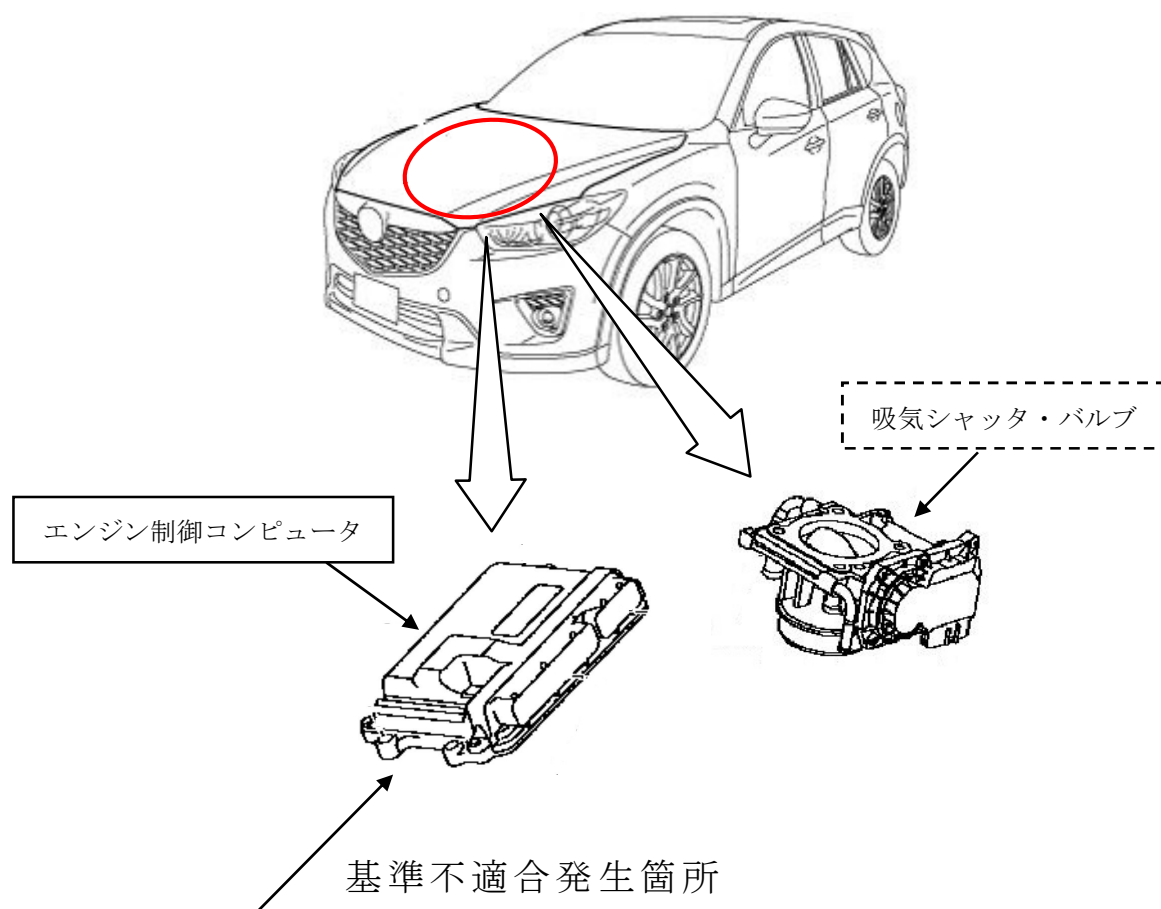
改善の内容

全車両、吸気側バルブスプリングを対策品と交換する。なお、交換に時間を要するため、年式の古い車両から順次交換する。

識別：エンジン制御コンピュータのブラケットに白ペンを塗布する。

注) ☐ は、交換する部品を示す。

改善箇所説明図-②



エンジンの吸気シャッター・バルブにおいて、制御プログラムが不適切なため、バルブ周辺に付着する煤などにより、バルブ開度が正しく制御されなくなり、エンジン警告灯が点灯した際、フェールセーフが十分に機能せず、バルブが全開しないことがある。そのため、煤などの付着により、バルブが全開のまま固着した場合、エンジンが停止するおそれがある。

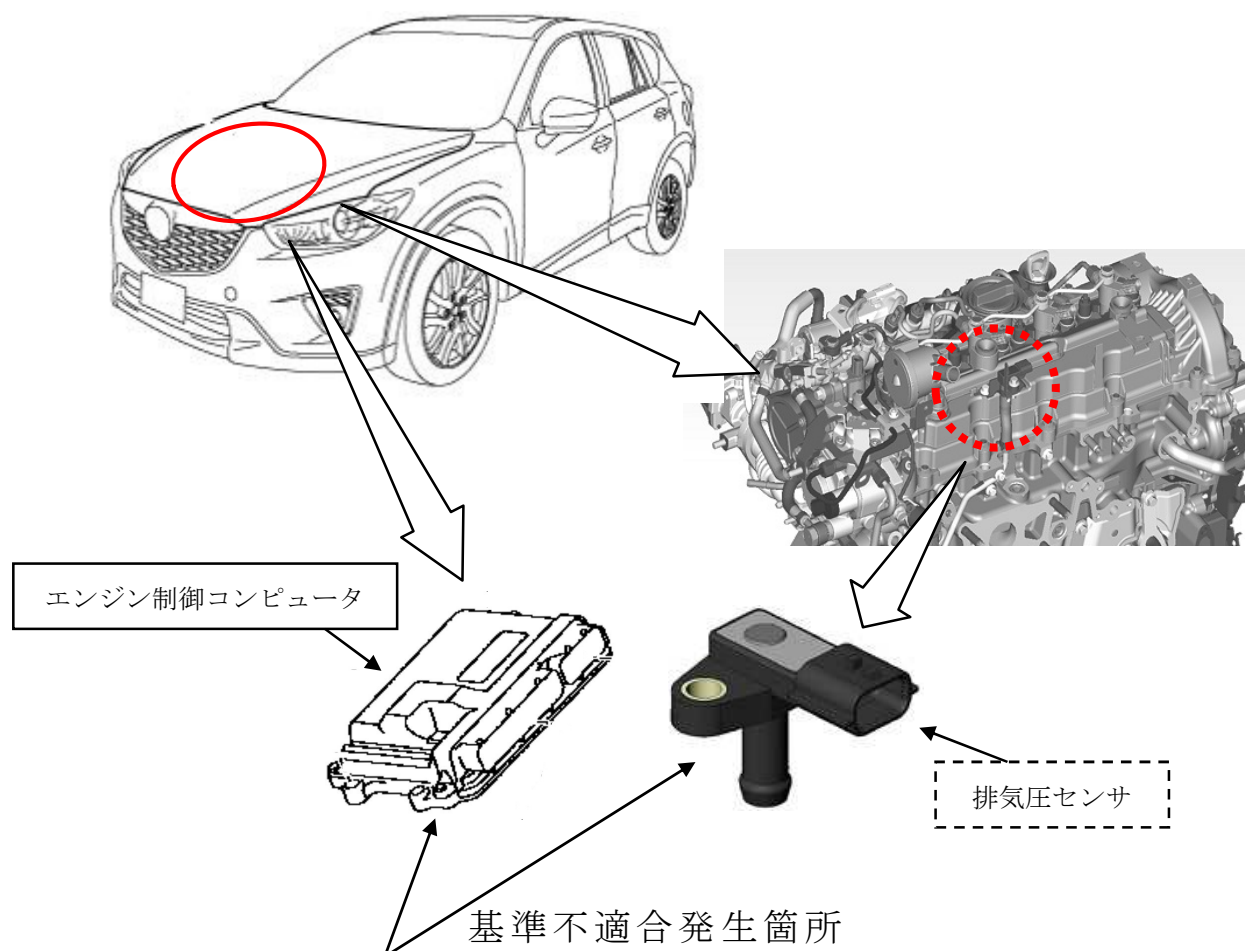
改善の内容

全車両、エンジン制御コンピュータを点検し、吸気シャッター・バルブ用制御プログラムを対策プログラムに修正する。点検の結果、吸気シャッター・バルブに異常がある場合は、吸気シャッター・バルブを新品に交換する。また、プログラム修正後にエンジン警告灯が点灯した場合は、吸気シャッター・バルブを新品に交換する。

識別：エンジン制御コンピュータのブラケットに白ペンを塗布する。

注) は、対策プログラムに修正する部品を示す。
 は、点検の結果、異常がある場合、及びプログラム修正後にエンジン警告灯が点灯した場合に交換する部品を示す。

改善箇所説明図-③



エンジンの排気圧センサにおいて、異常判定プログラムが不適切なため、センサ内部への水分の浸入により、センサの出力値がずれ、排出ガスが基準値を満足しなくなる場合に、異常判定しない。そのため、そのままの状態で使用を続けると、浸入した水分により排気圧センサ内の電子回路が腐食し、断線することでエンジン警告灯が点灯し、フェールセーフ制御によりアイドリングストップが作動しなくなり、変速ショックが大きくなるおそれがある。

改善の内容

全車両、エンジン制御コンピュータを点検し、排気圧センサ用制御プログラムを対策プログラムに修正する。点検の結果、排気圧センサに異常がある場合は、排気圧センサを現行の新品に交換する。また、プログラム修正後にエンジン警告灯が点灯した場合は、排気圧センサを現行の新品に交換する。

識別：エンジン制御コンピュータのブラケットに白ペンを塗布する。

注) は、対策プログラムに修正する部品を示す。
 は、点検の結果、異常がある場合、及びプログラム修正後にエンジン警告灯が点灯した場合に交換する部品を示す。